

「湘南港(江の島ヨットハーバー)のあるべき姿」のご意見募集結果について

1. 意見数

平成15年11月15日より12月16日まで意見を募集し、12名の方々から103件の意見が寄せられた。

2. 意見の概要

寄せられた意見を提言別に分類すると以下のとおり。

提言 : 20件、提言 : 44件、提言 : 7件、提言 : 1件

提言 : 4件、提言 : 4件、提言 : 2件、提言 : 3件

提言 : 1件、その他 : 17件

合計 : 103件

3. 意見の内容

提言 : 江の島と湘南港が一体となった「みなとまちづくり」に関するご意見

観光振興に関する施策や団体が一体となったNPO等の立ち上げるべきとの意見が寄せられた。また、豊かな自然を残すことや静かな海を望む意見もあった。

提言 : 海洋学習の拠点づくりに関するご意見

主にヨットハーバー利用者から、管理面、施設面に対する改善要請を頂いた。また、アクセスディンギーは子供と障害者だけでなく万人向けのプログラムであるとの指摘を頂いた。その他、女性センターを海洋学習の拠点として活用すべきとの意見を頂き、逆に、海洋学習の拠点は片瀬西海岸に建設中の水族館等と同じではないかとの指摘も頂いた。

提言 : 市民に開かれたみなとづくりに関するご意見

湘南港専門広報誌によるPR手法の提案やアクセスディンギーのPRを推進すること等のご意見を頂いた。また、既存のビジターヤードの利便性向上についてご意見を頂いた。

提言 及び : 周辺景観との調和及び魅力ある湘南港の雰囲気づくりに関するご意見

船を見ながら食事できる雰囲気づくりに賛成するご意見を頂いた。また、ヨットイルミネーションを実施していることなど、ヨットを風景にした景観づくりの提案も頂いた。一方、イルミネーションによる光害や利用時間延長やサウンドスケープによる騒音が課題であるとのことのご意見も頂いた。

提言 : 陸上アクセスの改善に関するご意見

江の島からの利便性が悪いことやパークアンドライドやシャトルバスの導入を進めること、鎌倉の観光客を誘致することなどのご意見を頂いた。

提言 : 海上アクセスの形成に関するご意見

江の島周遊及び鎌倉・茅ヶ崎方面への観光船運航の提案を頂いた。また、江の島を一周できるルートの提案を頂いた。

提言 及び : 緊急物資受入港としての機能の充実及び安全管理の向上に関するご意見

江の島の治安維持のために夜間のアルコール販売を禁止することや波浪対策として、本船岸壁を延伸する提案、緊急物資備蓄基地として女性センターの活用を検討する提案を頂いた。また、恒常的に混雑した江の島を緊急物資受入港に指定すべきではないとのことのご意見も頂いた。

その他 : 新たな提案や全般的なご意見

境川のプレジャーボートを収容すべきとのご意見や、懇話会の委員構成に関する意見、新たな管理制度の導入などについて多くのご意見を頂いた。

4. 意見（原文）

頂いた意見を文意のまとめり毎に1つのご意見として区切り、意見総数として集計し、できる限り原文に近い形で掲載しています。

意見者

1. レストランが3流で立地条件を活用していない。
2. 学生ヨット連中が乱雑に持ち物を置き散らし、整理整頓しないのでハーバーが小汚い。
3. 長期使用していない放りっぱなしの艇を整理すべき。
4. 営業時間を見直すべき。県職員の勤務時間に合わせて終了するのはサービス精神不在の証拠。特に夏季は7時終了が妥当かと思えます。
5. 大型艇用の浮き桟橋が老朽化し危険。事故防止の観点から早急に改善しないと事故が起こって賠償問題が生じないとも限らない。
6. 岡本造船の周囲が乱雑である。整頓するよう強く指導すべき。
7. 欧米のマリーナや一流営業ベースのマリーナに比べ、料金が安いとはいえ、全般にハーバーが小汚い印象を与える点を改善すべき。

意見者

8. アクセスでディンギー（AD）のプログラムは、子供と障害者のためだけではなく、万人向けのプログラムである。
9. アクセスディンギーの活動について、現状の報告と問題点の指摘、及び将来望んでいる姿について、意見を述べます。2002年1月、江の島ヨットハーバーで日本大学を中心にして、ボランティア「豆の木」や、その他障害者にアクセスディンギーの体験会を実施した。その後、日大学生のほかに、江の島ヨットクラブの協力を得ることができた。2003年江の島ヨットクラブから（株）湘南なぎさパークに提案してもらい、同時にB&G財団と（株）リコーのアクセスディンギーの提供を（株）湘南なぎさパークが受けて、神奈川県のみならず、4隻のアクセスディンギーの体験会を行った。
10. 港内セーリングの問題として、シーズン中の週末では、従来のディンギーのハーバーへの出入りが多いため危険との指摘がある。2003年は第2水曜日と第3土曜日の月2度の体験セーリングを企画したが、週末体験開催の要望が強い。しかし、港内での【初心者】セーリングをこれより多くすることは、他のディンギーの人たちから不満が出てくると考えられます。
11. 江の島ヨットハーバーの位置の問題として、片瀬江ノ島駅から降りて、歩くと距離が長く肢体不自由の人には負担になる。又、一般の観光客から、離れているために、体験するかもしれない多くの人を逃していると考えられます。
12. 現時点で、ADによって生まれたコミュニティは、江の島ヨットクラブ関係の方々、新聞でこの活動を知ったの方々、それから口コミで参加している方で、まだ広がりがありません。
13. 現状の問題点から次のように提案します。
将来は、江の島ヨットハーバーでのADの活動は、基本的にレベルの高い競技志向の人達の活動に限定します。
一般の初めてセーリング体験をするような人達のための活動は、隣接する漁港、あるいは、平

成 19 年に開港予定の片瀬漁港でおこない、その主体も、ヨットマンではなく海の経験が豊富な漁師を引退した方達のグループで行って欲しい。

理由 1) A D 初心者プログラムは、セーリングの豊富な体験を必要としません、安全な水面と適切な天候の判断と、レスキューボートです。

理由 2) 江の島ヨットハーバーよりはるかに駅から近くにあり、肢体不自由の障害者には利便である。

理由 3) 漁港のコミュニティが、A D のプログラムを持つことは、ヨット関係のコミュニティとの交流が出来るきっかけになり、かつ、A D のプログラムは、既存のヨットの行っていない分野で、共存が可能だと考えます。

意見者

- 1 4 . 提言書を読み、日頃、江の島の観光資源開発や演出についての自分の考えと大変近いところで議論されていることを知り、嬉しくなりました。
- 1 5 . 提言書 P - 3 のテーマ 1 から P - 4 の後半、P - 5 の将来について、指摘のとおりです。政府方針 2010 年までに海外からの観光客倍増をこの江の島ではどのように展開していくか、既に減少しつつある現状から早急に対応を迫られています。懇話会議事概要でも沢山の切り口で議論されていますが、私は 7 年間のアメリカ駐在中、国立公園探訪での体験から次の提案をします。
- 1 6 . 現観光案内所（洲鼻通りから地下道に入るところ）は”ピジターセンター”として機能拡充を図る。館内映画「江ノ島の歴史」上映で縁起から始まり、江戸の弁財天信仰、地震による隆起、オリンピック開発後の今日まで。これは観光客に事前の予備知識を植え付けます。さらにガイドコース解説、現「江ノ島探訪クラブ」などによる案内の充実など。
- 1 7 . 弁天橋には現在の屋台を京都の町家風の瀟洒な茶店にグレードアップ。
- 1 8 . 植栽、トイレはいつも清潔にする。雑草、落書き対策は NPO を立ち上げる。
- 1 9 . 江ノ島大橋はパーク・アンド・ライドを実施して渋滞解消すること。出来れば弁天橋歩行時の左側眺望優先のため、少し高さをどちらかで差をつける。
- 2 0 . 新設温泉前には大道芸など定着させ、リピート客も呼びたい。
- 2 1 . 左の芝生広場沿いに砂浜を開放する。
- 2 2 . 現女性センターは”江ノ島博物館”とする。既に藤沢市準備室担当は十年余り研鑽、遺跡研究に従事して居られる。
- 2 3 . 湘南港は市民に開放し、貴説のようにカッター体験も実施。
- 2 4 . 湘南港から江ノ島一周の棧橋を作り、岩屋前から稚児ヶ淵經由裏道に通じる、正に一周ラリーを実現させる。これは予てからの悲願です。
- 2 5 . コッキング苑南の海岸には亀ヶ岡ドリームランド（仮称）を遊園地として造成。
- 2 6 . 竜野ヶ岡（仮称）を南西端にも造成する。イベント、コンサート催場とする。

意見者

- 2 7 . ヨットに関する書籍、資料等のライブラリー室の設置（海、船、その他も含む）
- 2 8 . 上記の書籍、資料の寄付受入先の設置
- 2 9 . 毎年 4 ~ 1 0 月までのシーズン中、ヨットの「よろず相談所」の設置
- 3 0 . 湘南港のタウンニュースの発行
- 3 1 . かながわ女性センターが移転するとの新聞記事がありましたが、その跡地に、江の島近辺の漁業、相模灘の海の状況、ヨット等に関連するアミューズメント施設の整備。また、その内にヨット利用者のための安い宿泊施設、ヨット関連の売店、集会場、及び上記施設の利用者の食堂街等の設置

意見者

32. 境川に停泊する漁船・プレジャーボートを全部収容でき、魚の積み卸しなどに便利な、船の持ち主に楽な漁港とマリナーにして欲しい。
33. 船を川沿いに停泊させないで欲しい。
理由1) 津波・大雨の災害時に危険
理由2) エンジン音と船のきしむ音で睡眠不足になる。
理由3) ガソリン臭で吐き気がしたり、目が痛くなる。
理由4) 家の中が煤で黒くなる。
築1年目の外気導入口の写真及び2ヶ月間洗面所の通気口に付けたフィルターを参考に送ります。

意見者

34. 平成15年11月発行された「湘南港のあるべき姿検討懇話会」作製の提言書について本会の意見を申しのべたいと思います。
本「提言書」作製経過の問題点
今回発表された提言は、江の島の中で、昭和39年東京オリンピック開催、埋め立て造成され、現在、ヨットハーバー、なぎさパーク、として利用されている地域を、大型船も寄港出来る湘南港とそれに付随したみなとづくりを進めようと言う構想となっている。
本提言書を作製した経過は、この湘南港一帯は、神奈川県管理地なので、県土整備部河港課の主導で今年3月、15名の委員による「検討懇話会」を設立し、湘南港の課題や地域に果たすべき役割、開かれた港湾の地での新たな機能等について意見交換を行い、まとめたということである。
しかし、15名の委員のメンバーも、団体、企業、役所、組合の代表や、藤沢市長等が顔を並べており、一般市民や環境団体はほとんど含まれておらず、官主導の懇話会となっており、今日社会的にも問題になっている箱物作り優先の県行政が進められようとしている。本会として、まず最初に指摘しておきたいのは、こうした官主導で提言書を作製し、一般に意見を公募し、おおかたの賛同が得られたから、提言計画を実施に移すという官製住民意見聴取のやり方には反対であり、幅広い住民団体、環境団体、地域住民の声を聞く場を設けるべきであることを申し述べておきたい。
35. 江の島の位置づけについて
本提言書では、江の島は、江の島本島(観光地)と湘南港の二つの部分で構成されているという位置づけであるが、こうした考え方で、ヨットハーバー地帯の再開発を進めようと言うのは問題である。テーマ1で、江の島と融合した「みなとまちづくり」を標榜しているが、記載されていることは、江の島の自然環境、歴史的景観、静かな海、学術的にも貴重な潮の満ち干によって出現する陸繋砂州の破壊等である。
江の島は、観光地であるが、美しい自然、歴史的景観、静かな海、等に魅せられて全国から多くの人々が訪れており、大型クルーズ客船を誘致し、寄港するたびに花火を打ち上げる等という喧噪を好んで訪れるのではない。江の島花火大会は年1度打ち上げるからこそ、多くの人々が心待ちにしているのである。
36. 江の島には静かな海がふさわしい
現在作られている、湘南港の先端から夏の海を眺めると、海岸には海水浴客、ヨットサーフィン、沖には白い帆のヨットが浮かんでいるという情景を見ることが出来る。こうした中に、時折、異端児の様に騒音を立てて走り回る水上オートバイ程静かな情景を打ち壊すものはない。提言では、帆船や高速艇など多種多様な船舶が来航するみなとづくりの推進をうたい文句にしているが、喧噪の海では、一時の物珍しさはあっても、長い目で見れば、やがては観光客に見捨てられてしまう事になりかねない。
37. 施設作りの海洋文化拠点論であってはならない
テーマ2では、湘南港を海洋学習の拠点づくりにしたいと述べているが、生物観察については片瀬西海岸に建設中の水族館でも同じ事が言われ、また体験漁業では片瀬漁港建設でも同じような事が言われ、二番煎じ三番煎じの事がここでも述べられている。海のスポーツ施設は現在の施設の有効活用で充分機能が果たされていると思われるのに、本テーマの参考事例には、国立室戸少年自然の家や大阪の府立少年海洋センターなどの写真を載せ、中長期計画で青少年の体験学習を支援する

海洋文化拠点施設を、民間、藤沢市、神奈川県で作る計画をたてているが、これも問題である。こうした宿泊施設が、結果は、あちこちで立てられた厚労省の施設などのようにただ同然で払い下げられている現状も見ずに、あえて、同じような施設作りを進めようとしている懇話会の見識が疑われる所である。現在、江ノ島には、県の女性センターがあるが、宿泊施設などは充分活用されていないと聞いている所に、新たな対象が青少年とは言え、同じ轍を踏みかねない施設をつくらうというのは問題である。みなとまちづくりと称して、一般の人が気軽に立ち寄れる様な施設作りというのも、8年前、取りやめとなったなぎさシティー計画同様、島民や一般市民の求めるものではない。

38. 江の島の景観を打ち壊す「景観への配慮」

テーマ3では、「景観への配慮」をうたい文句にしているが、照明公害をもたらす、ライトアップによる夜間景観の演出、騒音公害をもたらすサウンドスケープ装置、施設利用時間の延長など、市民や島民、江の島を愛する多くの国民が望む、美しく静かな江の島の自然と景観、雰囲気壊す計画が羅列されている。書かれていることは、景観を打ち壊す施設作り以外の何ものでも無い。地域、近隣の住民は、夏の海水浴シーズン時、夜間の暴走族の騒音に悩まされており、これ以上の騒音が一年中繰り返されることには耐えられないのである。

39. これ以上江の島に車を入れるべきではない

テーマ4では、江の島へのアクセス改善と称して、いろいろと施策を並べているが、要は、車の渋滞を緩和して島に入れるかと言う事であり、渋滞を緩和すれば、島民の交通の妨げや騒音、排気ガスの発生が緩和されるというものである。具体的にはパークアンドライドシステムの導入とか江の島大橋の拡幅などが提言されている。しかし、江の島に入るのも出るのも一本の橋を渡る以外になく、江の島に車を乗り入れるには限界があり、これ以上の交通の緩和と称して大金を掛けて施設を拡充することには、投資効率の面からしても問題があり、また、江の島大橋を拡張することは、現在でも消えかかっている、江の島に通ずる陸繋砂州を消滅させるおそれがあり、貴重な天然記念物を破壊する拡幅工事を行う事には反対である。

40. 大型船の受け入れの為の港機能拡充には反対

テーマ5では、緊急物資受け入れ港としての機能充実がうたわれている。現在、2000トン級の船が止められる耐震構造の岸壁は整備されているが、静穏度に問題があり、また緊急物資受け入れの為の施設も整備されていないという事である。提言では、静穏度が充分整備されていない本船岸壁については、静穏度向上の為の対策の検討を進めると共に、医療品等の仮置倉庫や通信施設の充実等、緊急物資受け入れ港としての機能の充実を図る、とされている。しかし、江の島を出るには、江の島大橋一本しか無く、陸部も住宅地が連なり、日常的に混雑している交通アクセスの下で、緊急物資受け入れ港としての機能が果たされているのか疑問である。また、こうした港湾施設は、歴史的に観光の島、江の島にふさわしいものではない。また、先にも述べたが、物資輸送をスムーズにするために、江の島大橋を拡幅し、自然の砂浜を壊すことには反対である。

41. 有事に利用されかねない湘南港拡充に反対

かつて、茅ヶ崎に、新湘南港が建設され、米軍厚木基地の物資荷揚げ港にしようという計画があった時、多くの市民の反対で取りやめになった。今回の提言の中にはこうした点は一言も触れていないが、現在進められている有事法制の下で、有事発生の際には、港が接収され、米軍厚木基地への物資搬入の港として利用される可能性も充分ある。提言の改善は、充分こうした機能を果たすことが可能であり、また提言の中に、ヘリコプター輸送なども描かれており、いざとなれば、江の島に荷揚げされた米軍物資が、ヘリコプターで厚木基地まで空輸されかねない。江の島は、古来日本人に愛された歴史的景勝地であり、豊かな自然の残る観光地である。こうした平和な島に、大金を掛け、自然を壊して、軍事的に利用されかねない施設を作る事には反対である。

意見者

42. 私の経験から、ヨーロッパのベイリゾート都市の発展はすばらしいアクセスが構築され、それが成功しているからです。それを参考にすると湘南なぎさプラン、片瀬漁港の完成等を考えてアクセスを検討する必要ありと思います。また、鎌倉止まりの観光客の誘導も必須です。それは外人観光客の大幅増加が見込まれるからです。

- 43 .上記の施設が完成することにより、益々134号線が渋滞し、夏場には通行不可能が予想される。それが為、江の島大橋から江の島へは自家用車の乗り入れを禁止。シャトルバス、私鉄・観光バスのみ乗り入れ可とする。全てパークアイランド方式とする。
シャトルバスは小田急・江ノ電江の島駅から江の島及び水族館などへの循環コースとする。
- 44 .江の島島内の駐車場の一部を撤去し、景観条例にマッチしたドーム方式のイベントホールを建設する。イベントは夏場以外の時期にもより多くの企画をたて、年間を通じて観光客の増加を見込む。特に海外からのアプローチを良くする。またこのイベントホールは災害時の救援物資のストラックヤードとしても活用する。
- 45 .土・日・祝日には甲板デッキの無い、安全なグラスファイバー式の屋根つき汽船（30～50人乗り位）を新設し、江の島一週及び鎌倉・茅ヶ崎方面への周遊ルートで運航する。老人・子供が安心して海から見た景観をガイド付でエンジョイして貰う。
- 46 .アクセスの改善を図るため、片瀬海岸東浜、海の家の間アルコールの販売を禁止させる。毎年、暴力事件が起き国内及び海外まで報道され、「江の島は恐ろしい所だ」というイメージを植えつけている。地元としては極めて残念な事であるので県・市を挙げて警察等関係先の協力で解決する。

意見者

- 47 .懇話会の委員の中に、このハーバーの利用者が入っていないのは疑問です。年間、数十日もきている人がたくさんいます。また、昔からの経過や江ノ島のことかなりもよく知っています。今後は、利用者にも協力をさせてください。
- 48 .漁業者の定置網等について、神奈川県条例等の規則を守るようしっかり指導してください。ほとんど守られていません。網に標識がついていません。夜間や荒天時など大変危険です。
- 49 .神奈川女性センターを大きなヨットレース大会のパーティー会場等多角的に使えるように出来ないものでしょうか。検討してください。
- 50 .係留・陸置艇の電気利用は、無料としてください。利用料に含まれるものとしてください。コード等は各艇で用意いたします。
- 51 .以前からの県外利用者に対しては、県内利用者と同様の利用金額にしてください。
- 52 .港内航路に障害物があり（喫水が確保されてません）非常に危険です。至急対処してください。
- 53 .大型クレーン下の浮き棧橋の固定レールが壊れています。至急修理してください。危険です。
- 54 .浮き棧橋のメンテナンスができてません。また固定用の柱がゆがんでいます。このままですと台風時等、大事故につながりかねません。至急対応してください。また、通常のメンテナンスも適正に行ってください。（オイル等塗られたのを見たことはありません。メンテナンスの責任部署を明確にしてもらいたい）
- 55 .船具ロッカーのメンテナンスをしっかりと行ってください。壊れていたり、はげていたりします。
- 56 .クルーザーバースへの関係者以外の立ち入り制限をお願いいたします。（防犯上好ましくありません）
- 57 .係留料を下げてください。他のハーバーは値下げしています。
- 58 .人件費等の固定費がかかるという理由であれば、事務所人員の削減を要望します。（熱海スパマリーナはハーバーマスターと事務員の二人です。クルーザー88隻うちビジターバース8隻）
- 59 .クルーザー利用者へ駐車場利用に対する優遇措置を講じてほしい。（無料化または回数券など。他のヨットハーバーや他の公共施設を参考にしてください）
- 60 .駐車場が満車のときにはハーバー内の空きスペースを利用者へ開放してください（臨時ディングー置き場等）。満車時の駐車違反で横浜地方裁判所へ出向いたとき、検事より道路交通法以前に継続利用者のいる公共施設の改善が必要とのこと。
- 61 .陸置艇の周りの水道蛇口がもう少し多いと助かります。
- 62 .陸置き艇のサイズについて、置き方等を工夫すれば10m程度は置けると思います。また県の収入増にもなります。
- 63 .係留艇のうち、船台が合わず、他のハーバーで上架している艇があります。どの係留艇も上架できる船台を用意してください。
- 64 .係留艇の上下架は、年に何回かは、無料にしてください。整備のため必要です。

- 65．陸置き・係留共に艇の入れ替えについての規制を緩和して欲しい（出港回数など）
- 66．平日のクレーン稼働時間を拡大してほしい。夏季8時～19時位 冬季8時～18時位
- 67．有料でよいから、艇の下架をサービスでもらえないか。早朝、出港時、前日に艇を下ろすためだけに来るのは大変です。
- 68．利用者の意見を反映させるため湘南なぎさパークへの経営参加希望者もいます。（株式の取得希望者あり）
- 69．クラブハウス入り口の自動販売機設定場所に一考を。（もう少しスマートにしたいと思います）
- 70．臨時係留代が時間単位でなく日単位のため、外来艇の利用が阻害されています。
- 71．他のハーバーと同様、時間単位もとりにいれてください。
- 72．氷の販売をしてください。夏季非常に助かります。
- 73．3トンクレーンを更新大型化しドラゴン等クレーン周りに新たな陸置きクルーザーバースを設置してください。これも収入増となります。
- 74．クラブハウス、及びトイレ等、障害者が使いやすくしてください。（エレベーターの設置や障害者用トイレの増設）
- 75．燃料補給ができるようにならないでしょうか。現在大変不便です。
- 76．以上いろいろと利用者の要望を取りまとめました。至急対応していただけないと将来大きな事故や大修繕になるものがありますので、よろしく願いいたします。
- 77．私たちは、ヨット乗りとして協力できることがあればいたしますので、遠慮なく連絡してください。（要望するだけの集まりではありません）

意見者

- 78．江ノ島、湘南港を中心の地域活性化の提案には基本的に賛成します。ここで提案された多くの内容は江ノ島に限らず、長い海岸線をもつ神奈川県、全日本に通用するものです。地域活性化 地方分権 民間活力の導入などのモデルプランとして官民一体になってこのプロジェクトの実現にチャレンジすべきと考えます。この場合県土整備部の一プロジェクトではなくて広く県、市、市民、地域の総括的プロジェクトとしての位置づけと各部門の参加意識が重要な鍵になると考えます。
- 79．テーマ1江ノ島との融合、テーマ2にある海洋文化拠点の形成やテーマ4のアクセスなどを配慮に入れると、最初から片瀬海岸も加えた地域全体での振興策として検討していった方がよいと考えます。しかし、融合、協働と言いながら構成メンバーには異議があります。みなとまちづくり協議会の構成メンバーは地域のNPO、市、町、神奈川県とありますが、湘南港の主要利用メンバーであり、多額の利用料を納付し、今後の町作りに多大な力を発揮し、青少年や修学旅行、観光客へのサービスなどを提供する事の出来るヨットマン達を除外していることは納得できません。小学生向け海とヨットの体験教室、親と子のヨット教室、障害者中心のアクセスデインギー活動、市民参加の夏のヨットイベント、レンタルヨット、年末のイルミネーション、などを現在も実施し、今後も活動メニューを増やし協力体制にあるヨットマンの意見に耳を貸す態度が特に行政側に必要だと思います。駐車場に車を置く人と同一ではありません。通りすぎる観光客でもありません。湘南港で同一メンバーが永年にわたり常に活動しているのです。今後の協議会、実行委員会などへの参加を希望します。ご配慮ください。
- 80．提言実現のための施策案の主体は県、市、NPOとありますが、細分化された行政区分の中で、誰が実行の主体になるのか、ハード面ソフト面など最初の段階から総合的なリーダーシップが必要であり、裏付けとなる資金調達など明確にしていけないと“絵に描いた餅”で終わってしまいます。特にソフト面での十分な検討なしでハード面だけが先走りすると壮大な無駄使いになるおそれがあります。既存の規則に縛られた現業主体ではなくて、自由な発想が出来る第3セクターを主体に据えて、協働作業として行政機関が全面的にバックアップする方式を提案します。P6 各主体による着実な実行の中にも規制緩和利用促進とありますが、許認可権を楯に、現場を知らない人が全権を握る限り改善、新しい発想は生まれません。権限移譲とともに柔軟な頭と勇気のある実行力なくしてこのプロジェクトは成功しないと感じています。
- 81．海洋学習の拠点としては県女性センターの再利用を提案します。修学旅行など青少年を対象にした宿泊設備、海と気象の研修室、船の歴史資料室、海のスポーツ総合インホメーションセンター、

同各スポーツの訓練教室、簡単な工作室、などと共に修学旅行、一般宿泊客、日帰り観光客むけのヨットをはじめとする実際体験できる仕組みを作り上げることを提案します。学習拠点としての重要性を述べながら、佐島の青少年海洋センターを何故神奈川県は手離したのか？同じ轍をまた江の島で繰り返すことはないのか？県の教育施設に対する取り組み姿勢に疑問を感じています。国際的ヨットイベント、全国大会などと江ノ島での祭りなどのイベントと一緒にやる事による総合的効果は大きいと思いますが、現状はアクセスと宿舎が大きな障害になります。この辺の調整も含んで総合的な話し合いは非常に大事だと感じています。

- 8 2 . 藤沢市はじめ湘南地区の小、中学生の総合学習、修学旅行の歴史と海の体験学習には、江ノ島と湘南港、片瀬海岸の海のスポーツ団体、漁港、そして地元の市民が協働作業をすれば実現可能です。琵琶湖のBSS、唐津の海洋センター、その他九州、沖縄での成功例を参考に首都圏に近い海と自然に恵まれた江ノ島で、各団体がバラバラ小さく活動する現状から脱却し総合的に行動する事さえ出来ればと思います。誰がその夢を語り動きだすかです。行政の強力なバックアップなしには出来ませんが、現行の規則を楯に管理する姿勢では実現不可能でしょう。例えば、湘南港に海のスポーツとしてのカヌーやカッターを置けるようにする。海から来るヨットやボートの臨時バースの利用料を時間制にする。海洋学習や小中学生向け海洋スポーツの機材の準備と活動の支援。一般市民の憩いの場としての緑豊かな解放区での飲食バーベキューなど。国際イベントなどでの参加者、参加艇に対する特別支援。ハーバー内遊歩道でのヨット体験やワゴンセールなどのハーバー祭り開催許可などです。活性化に協力しようとするヨットマンの力を生かす姿勢を持ってください。
- 8 3 . ハーバー東側外堤防の10～20m延長。ポンツーンの支柱の1.5mの継ぎ足しを要請します。津波対策です。ポンツーンの基礎をチェックしてみてください。その場しのぎの支出はやがて来るであろう台風、地震に耐えられずまた過大な支出が重なることとなります。緊急物資の格納場所として県女性センターを提案します。
- 8 4 . 東京オリンピック以来日本で有数のセーリングスポーツ、青少年育成のメッカである江ノ島ヨットハーバーは今後も自然と融合する海洋スポーツの基地としての存在理念を遵守していくために、今後とも小型ヨットの環境を守って頂きたいと要望します。更に今後は生涯スポーツとして県民の健康を守り、活用していくために高年齢者、年少者、女性、身体障害者などへの現在以上の配慮が必要です。エンジンを使う水上バイク、レジャー用モーターボートなどと風や人力だけで動くヨット、カヌー、カッターなどを同一の狭いハーバー水面で使用することは安全面からも反対します。モーターボートは既に契約期限も切れた隣接の漁港を中心に基地を改修されるべきだと思えます。海洋スポーツのメッカとして神奈川県が日本に誇れる施設としての存続を切望しています。
- 8 5 . 現在も湘南港での収支についての説明を納付者であるヨットを湘南港に置く人達に説明をされていませんが、この公開と共に、その収入の何割かを新しい江ノ島みなとづくりの活動費として支出することを提案します。そのことにより湘南港ヨット利用者が参加意識を持ち、その活動とともに行政に対する信頼感が得られると考えるからです。

意見者

- 8 6 . ホームページに掲載されております「湘南港のあるべき姿提言書」を要約すると、時代の流れの中で海とのかかわり方はヨットだけでなく様々な方法が発生してきており、これらに対応するには現在の施設は老朽化しており、またヨット利用者も減ってきているため施設を改善し島の観光と一体となった総合レジャー基地になるべきだ、と解釈できます。確かにそうかもしれませんが、そこには大事な視点が欠落しているように思えます。ここでは、将来のヨットハーバーのあるべき姿を「機能や施設の改善の視点」で考えるのではなく、主に「利用者の喜びとか達成感とか習熟」といったいわばソフト的視点から考えてみたいと思います。
- 8 7 . 湘南港は、ご存じのように、1964年の東京オリンピックのヨット競技会場として埋め立て建設されました。江ノ島漁組は漁業権を放棄し国道134号の藤沢市と鎌倉市の市境から真っ直ぐ南に伸ばした線を境に西側をマリン区域とし、東側は鎌倉腰越漁組の漁業区域としてそのまま残しました。競技海面のA海面及びC海面はマリン区域に在りますが、B海面は漁業区域の中にあります。ま

た、大型定置網もそのまま漁業域南端すれすれに残され、現在海からの侵入を阻止するかのように外来艇に対して大きく立ちはだかっております。一方、当時の認識ではハーバー建設については大型船舶も係留できる港湾機能を備える施設として位置づけられ、それゆえ管理母体も大型港湾施設とヨットハーバーが一体とみなされた土木行政の一元管理下に置かれることとなりました。これが不幸な生い立ちといえます。次に、アマチュアスポーツの頂点であるオリンピックを招聘するときに、ヨット競技においてはヨットクラブがホストクラブとしてすべてを司るという国際慣習に従い県主導でクラブを設立しましたが、ヨットマンの集まりであるヨットクラブとせず、財政基盤を重視したと思えるハーバー建設に参画した企業体をベースに江の島ヨットクラブが設立されたと聞いております。ヨットライフに対する十分な理解もなく「・・・だろう」という想像だけで集まり作られたヨットクラブが施設全体の管理を任せられ、最初の一年ですぐ経営がつかずきやむなく県弘済会に委ねられたそうで、これが第二の不幸な生い立ちと言えそうです。

- 88．オリンピック・ヨット競技の会場であった湘南港ヨットハーバーでは、国内最大のディンギー系のヨットハーバーとして長い間、国内の様々な全日本クラスの大会が開催され、その後のオリンピック選手や多くのヨットマンを輩出してきました。しかし、長い歴史により積み重ねられたオールドヨットマンや、異分野の人々の参入によりヨットが単に競技目的のエリートスポーツだけではなく、ヨットを通じて様々な自然を楽しむことができる「心の遊び道具」であるというレジャー的側面から、生涯スポーツとして見直され、安全で誰にも操作のし易い手軽なヨットが多数開発され急速に普及しました。相模湾には、長い海岸線があるにもかかわらずディンギーヨットを海に手軽に浮かべる施設が少ないため、湘南港ヨットハーバーの陸置きバースの権利を手に入れるのが困難となり、闇ルートが出来、プレミアがついたりしたため港湾管理者との信頼なき戦いの時期が長く続きました。手続きの煩雑さや、様々な利用規制やなかなかバースが手に入りにくいなどの困難さがディンギーヨットの普及にブレーキを、かけはじめ、その時期、サーフボードにセールをつける試みで開発されたウインドサーフィンが海岸のどこからでも海に乗り出せる手軽さと簡単に操作を覚えられるイージーさとスピード感、水深を必要としない安全性等から急速に普及し、それがディンギー系ヨットの衰退の遠因になったとも言われております。
- 89．現像面をみれば確かにそうですがディンギーヨットの衰退とも言える原因のひとつに、団体の中からエリートを抽出するレース中心のヨットとの過ごし方が果たして「本当に楽しかったのかしら？」という疑問です。たとえ、子供でも個人の日常生活が尊重され、乗馬やヨット等マナーを基本とするレクリエーションを通じて「人との交流を最も大切に」それがクラブライフであるという概念が家庭の中で定着している欧米社会と、一方で全てを犠牲にしてヨットの競い合いに全てを注ぎ込むエリート主義の日本では、生活文化そのものが余りにも違いすぎます。心の充足感とか、実生活での充実した職業人としての余暇での楽しみ方、こうした問いかけが今、様々な日常性の中で言われ始め、様々なレジャー提案がなされて来ております。
- 90．幸いにも江の島ではミレニアムを境にクルーザー利用者の台頭が目立ち始めております。クルーザーはディンギーと違い船内（キャビン）での生活が可能で耐候性に優れているため航海術さえあれば海を越えて世界中どこにでもいける可能性を持ち、欧米では広く普及しており一般的にヨットといえばクルーザーのことをいいます。今、このクルーザー利用者がハーバー内でのリーダーシップをとり大人のヨットの楽しみ方を、様々な形で披露し、共に楽しんでおります。一般市民のお子さんや大人たちにも広く呼びかけ、ヨット教室や体験クルージング、ヨットイルミネーションによるページェント、間近に見られるクルーザーレース等様々な企画で接点を模索しております。もう一度、日常生活の中のヨットを考えてみることから生活文化としてのヨットライフが想起され、ヨットを風景にしたハーバー環境のあり方が提案できると思います。
- 91．それでは、ベースである港湾施設（ポート）からの脱皮し人々の生活文化の拠点としての文教施設（ハーバー）へと、どうすれば成長することができるのでしょうか。ここでは例えば、考えてみます。多くの人々に利用されレベルが高いと言われる次世代型図書館（メディアパーク）は単に本の貸し出しを行っているだけでなく、高度で様々な情報を持ち、様々なツールでそれらを整理し必要とされる機能を迅速に提供するサービスができながらも、本来の「智の宝庫」である図書館のイメージは保持しております。同じように、人気のある音楽ホールは最新の文化情報のなかで最高レベルの内容把握をしながら細心のサービスを提供しております。これらに共通して言えるのは、どちらも優れた学芸員（専門家）を擁しており、常に最大のサービスを心がけ自分の仕事に使命感を持った学芸員の提案が共感する多くのユーザーに支えられていることです。これらのこの考え方

に習えば、これからハーバーに求められる機能は施設そのものを議論する以前に、利用者の実績を十分に理解認識できる海の学芸員とも呼べる専門家（現役のヨットマンやサービス業や教育者や実業家等）を交えた組織による、企業 運営 管理といった高いレベルのプランニングとプログラムに支えられ、そうしたフローが外部の誰からも見ることが出来るパブリックコメントを備えたコーディネーター能力と言えましょう。具体的には現役のヨットマンの団体やサービス企業や一般市民等の自己責任により出資された新法人が思考と決定を行い、具体的サービス（管理）は経済法則に則る一定のレベルを備えたサービス企業が担当するのが好ましいかもしれません。公設民営の原則のもと、市民が主人公（利用者による自治）行政は少なくとも背後サービスとして見守るという枠組み（ストラテジー）がベストと考えられます。

- 9 2 . 現在のヨットハウスは神奈川県国体の開催前に解体の運命にありました。幸い県の財政が左傾斜になり、一命をとりとめました。一昨年のノルウェー王国ハロルド 世・国王夫妻と天皇・皇后両陛下の御来島ではじめて官民が一体となりお迎えの準備を成し遂げました。関わった誰の目にも明らかであったのは、時間は継続しておりそれが歴史であり、ヨットハウスの単純なシルエットが強烈な思い出として皆の心に存在していたことです。
- 9 3 . 最近、ヨットハウスが機能の低下や、老朽化を理由に解体・改築される提案が再び俎上に上がろうとしております。しかし、皆の思い出を壊して何を構想しているのか理解できません。すでに述べましたように、「連綿と続く行為の中から文化は育っていくものだ」ということをどうぞご理解ください。これ以上不必要な構築物は島の景観を阻害します。むしろ現在の施設を保存・修復する方向で検討してください。障害をお持ちの方がハーバーを多数利用されている事実を直視し、例えば2階へのエレベーターや多目的トイレの各階設置や、場内放送がハーバー全域で聞こえない等身近なサービスの向上をすぐにでも実現してください。それ以外は多少不便でも大丈夫です。大切なことは今でこそ日々利用され活動している人が真のユーザーである、との認識です。

意見者

- 9 4 . 公表された標記会議のまとめとしては湘南港を中心として江の島全体の観点から捉えられていて総論的には充分理解できる。しかしながら湘南港（江の島ヨットハーバー）のあるべき姿であるからヨットハーバーとしての具体的展開が見えにくい報告書となっているように感ずる。
- 9 5 . 当懇話会の報告としては立派な提言がされていますが、その中でも何が一番重要であるかの点にある。提言書の 海洋学習の拠点作りが重要であると考え、マリンスポーツ（ヨット・カヌー等）は子供から高齢者までの生涯スポーツであり、学校における休日または修学旅行で江の島の観光と共にマリンスポーツを体験させる。このためには、女性センターをマリンスポーツ学習拠点とし、セミナー、会場実習、宿泊をしてある程度長期的なプログラム構築によりヨット・カヌーに接する機会を設定することである。現在の湘南港の管理体制を見直し、本船岸壁等を管理する港湾管理とヨットハーバーを管理する教育的管理をすることに区別をする。港湾管理としての現体制は良いとしても、ヨットハーバーについては教育庁・県民部の管理のもとでセーリング関係団体を中心に民間に委託していくことを提案する。
- 9 6 . 今後の社会情勢を見ると「リタイアしたシルバーを中心とした社会環境」になると予想される。その世代がリタイア後、自分のライフワークの選択に迫られる状況下「生涯スポーツとしてセーリング・マリンライフ」をターゲットに江の島ヨットハーバーの活性化を考える。体験・セーリング教室・セミナー等によってウイークデー活動のセーリング人口増を目論むシステムを関係団体としての取り組みの可能性は充分有る。システム構築のシミュレーションを開始することによって活性化を考え始めている。
- 9 7 . 少子化の時代を迎えつつある状況の中で、ジュニア・ユースの育成として春・夏・冬の休暇と土日・祝を利用した体験教室・初心者育成スクール・選手を目指すアドバンスドスクールの実施によるホリデー活動の人口増を目指すシステムの構築によって活性化視野に入れ関係団体として取り組むことを考え始めている。
- 9 8 . 関東周辺で活動する都・県連名のなかで冬季トレーニングが不可能な県の選手と艇を江の島に集結して関東各団体の合同トレーニング合宿実施の可能性について検討を始めつつある。神奈川・東京・新潟・長野・群馬他で強化トレーニング会場として活用する。

意見者

- 99．すばらしい提言書を読ませていただき、江の島ヨットハーバーの過去、現在、未来に思いを馳せました。既に充分ご承知のこととは思いますが、提言 及び提言 について、気が付きましたことを感想として述べさせていただきます。
- 100．観光地江の島と「ヨットハーバー江の島」は、あたかも全く別のもので受け止められ、利用する人も県、市ともそのように管理、運営してきたように思われます。そんなことはないとの反論もあると思いますが、少なくとも実態からはそんな印象が強いのです。私自身、かつて（20年から30年前頃）江の島からヨットを出して相模湾で楽しんでましたが、観光スポットとしての江の島には目もくれませんでした。どうしてもヨットと結びつかないのです。これからは、県内はもとより、神奈川近郊や全国からのヨットを楽しむ人々に島内観光と江の島料理を共に満喫してもらえような仕掛けをしていくべきです。この点は、提言に指摘されたことは全くそのとおり、大賛成です。
- 101．この提言に関連して、以下に私見を付け加えさせていただきます。まず、ヨットや船（観光船を含む）が好きな人たち、単に操船するだけでなく、乗せてもらうことが好きな人たちは熟年、老年、中年もふくめて、日本には大勢います。ヨットや船を通じた交流が大切です。江の島内観光と催しとこれらを組み合わせるもので県内外から人を呼び寄せるのです。また、ここから出かける基地にするのです。大型ヨットや客船の船上泊も季節に応じて魅力的だと思います。お金のかかりそうなヨットオーナーになれなくても、多少の出費と準備をいとわなければ、立派に海に親しめます。また、友達にもなれると思います。神奈川県だからこそそうあってほしいと願っています。東京湾の浦賀水道などを通らずに、伊豆大島や館山にも近い湘南港の優位性は抜群です。なお、上記のような誘致策をたてるためには、島内の観光業者の方々、藤沢市の観光協会などとヨット、船関係者（関連の団体を含む）がタイアップして、例えば、クリスマス、正月の初日の出、納涼花火、盆踊り、紅葉などに合わせて計画されたらどうかと思います。ヨットマンだけがもっぱら使うハーバーから「海と船の好きな人のための港」に少しずつ変身して行ってほしいと願っています。
- 102．提言書 について、ときどき行くのですが、横浜のベイサイドマリーナは、船を見ながら飲んだり食事したりして、それなりに雰囲気を楽しめます。夕方が一番いい時間ですから（特に夏は）、部分的にエリアを限って営業したらいかがでしょうか。民間企業に、一部施設の管理、運営もまかせていく方法も検討の余地ありと思います。ヨットを所有したり、ときどき乗る人以外の人々も気軽に立ち寄れる場所になればと思います。特に子供たちを連れてくれば、ヨット人口も増えてマナーを心得たヨットマンが育っていくと期待もできます。提言には、趣旨として賛成です。ぜひ、実現を望みます。（本文の中で、ヨット、ヨットマンとは、モーターボートも含めたつもりで書いています。
- 103．以上、思いついたことを述べさせていただきました。もっと海で遊びたい、免許はあるので時には船を操縦したいと願っています。10年、20年をかけて湘南港江の島ハーバーがより多くの日本国民に愛され続けられること、期待しています。

以上